

令和3年度 第53回 照明技術賞

映画部門

優秀照明賞 「すばらしき世界」

担 当 宗 賢次郎 (APEX 支部)

製 作 AOL Pro

全体的に違和感なく落ち着いたライティングになっていてストーリーに入って行きやすい。

また役者が演技し易い現場になっていることを感じる。照明はもちろん雰囲気づくりも素晴らしい。

審査員照明賞 「孤狼の血 LEVEL2」

担 当 川井 稔 (APEX 支部)

製 作 「孤狼の血 LEVEL2」製作委員会

凄惨な場面での暗部のディテール表現、計算された高速道路でのナイター走行シーン。

そして映り過ぎ、見え過ぎてしまうところでの大胆な潰しには高いライティング技術が感じられた。

優秀新人賞 「ドライブ・マイ・カー」

担 当 高井 大樹 (本部)

製 作 C&I エンタテインメント

全体にまとまったライティングで好感が持てる。劇中劇の舞台照明も絶妙な光量バランス。また車内の照明に関してもキチンと設計されていてとても観やすい映像に仕上がっている。

ドラマ部門

優秀照明賞 終戦ドラマ「しかたなかったと言うてはいかんのです」

担 当 中村 航 (NHK 支部)

制 作 日本放送協会

照明設計が全体的に巧妙。心理描写をライティングで表現し作品性を盛り立てている。

また照明にとって厳しい条件下でも時間経過や心情の変化を上手く醸し出している。見事です。

審査員特別賞 「准教授 高槻彰良の推理」

シーズン2

担 当 左納 康弘 (本部)

制 作 WOWOW/東海テレビ

淡いブルーグリーンの光と蝋燭のアンバー光でミックス。絶妙な光と色彩のバランスは素晴らしく、光が変化をしながらも丁度よいバランスになっていく様には高い技術が感じられた。

新人奨励賞 特集ドラマ 創作テレビドラマ大賞

「星とレモンの部屋」

担 当 村上 憲次郎

制 作 NHK エンタープライズ

簡易プラネタリウムを生かした星空の空間、難しいシチュエーションでも果敢に取り組み全体をうまくまとめ上げている。プラネタリウムの星空と人物のバランス感覚が良かった。

新人奨励賞 よるドラ「きれいのくに」 第五回

担 当 上野 涼

制 作 日本放送協会

心理状態をライティングによってうまく表現し、自然な映像表現ながらも微妙な色彩感や陰影を巧みに取り入れた照明設計が効果的。作品に沿った自然なライティングが良かった。

CM・VP 部門

優秀照明賞 リンナイ乾太くん「ホームランドリーで雨が好きになった」篇

担 当 高松 伸行 (本部)

制 作 株式会社オニオン

「雨天」では窓外の雨のシズル感と室内の湿気

感のあるトーンがマッチしている。また「晴天」は程よい直射光によって上品でバランスの良い画に仕上げられている。技術力の高さが感じられる作品です。

審査員特別賞 UQEN「登場」篇

担 当 HIGASIX

制 作 AOL Pro

すべてが豪華絢爛、人物はもちろん王室風セットや衣装、小道具等に対してもとても気を使いそれぞれが美しく捉えられていて素晴らしいライティングです。

MV 部門

優秀照明賞 鈴木 愛奈「Reverse Rebirth」

担 当 野口 マスト

(タッチ・アンド・ゴー支部)

制 作 株式会社ピクス

綺麗と大胆さを巧みに混ぜ合わせた見事なライティング。人物には柔らかい光質によってライティングされていて美しさが引き立てられている。全編通して照明設計が優れた作品です。

審査員特別賞 アイナ・ジ・エンド-金木犀-

担 当 田上 直人

制 作 フォーサイドメディア

スローバラードの世界感をライティングによって絶妙に表現している。ライトと色調を巧みに扱い、人物の表情と曲の情感をうまく表現している。照明設計が見事です。

総合部門

優秀記録映画賞 長編記録映画

「琵琶法師・山鹿良之」

担 当 長嶋 建人

製 作 オフィスケイエス

トップ光を生かしたコントラストのあるライティングで主人公の琵琶法師 山鹿良之さんを浮かび上がらせ、それによって人物に引き寄せられていく。ドキュメンタリーとして素晴らしい

画作りです。

審査員特別賞 日本一わきまえない女優「スマコ」

担 当 西野 龍太郎

製 作 2021「スマコそれでも彼女は舞台に立つ」プロジェクト

柔らかいトップ光の中でもコントラストのある映像になっている。心情の変化や感情表現は背景やトップ光の色を変え、台詞によって光バランスを変えるタイミングも絶妙です。

第31回 伊藤幸夫賞

①照明技術に真摯に協力が続けている助手。

横山 淳 (本部)

若い技師からの信頼が厚く協調性の高さで現場の活性推進に貢献している。



第53回「照明まつり」授賞式

照明まつり実行委員長 西野 哲雄

このNo.100記念号で第53回「照明まつり」機材展・授賞式パーティの写真が並ぶはずでしたが、感染症問題のため今年も6月開催となり授賞式の様子を掲載する事が出来ません。そこで今号では受賞作品の選定理由を掲載する事にしました。

今年も機材展や懇親会は出来ませんが、調布市のご協力のもと調布市グリーンホール小ホールにて、東京都と調布市のイベント会場感染症対策ガイドラインに基づいて、第53回「照明まつり」授賞式を開催。ステージ上で受賞者の皆様に盾やメダルそして副賞を贈ることとなりました。

受賞者の皆さま、本当におめでとうございます。